

STOP コロナ差別!!

新型コロナウイルスの感染拡大の中、多くの人が自分やまわりの人を感染から守るために、マスクをして3密を避け、手洗い、手指の消毒など、感染予防に努めています。

その一方、感染した人、医療従事者をはじめ暮らしを支える人たち、その家族の方に対しての、ひぼう中傷、いじめ、偏見など、「コロナ差別」と言われる人権侵害が起こっています。



よく分からないウイルスに対して、不安や恐れを感じることは、人間の自然な気持ちです。

しかし、不安のあまり、よかれと思って、こんなことはありませんか？

- × 感染した人を特定しようとする
- × 感染した人の家族や医療従事者などに対して、施設や店舗の利用を断る
- × 感染した人の情報をSNSに書き込む
- × 根拠のない憶測や推測で感染にいたる経緯をうわさする・・・

このような行為は、感染した人やその家族などへの、差別や偏見につながります。そして、その差別を恐れて受診をためらい、より感染が拡大するという悪循環を生みだします。私たちは、この悪循環を断ち切らなくてはなりません。

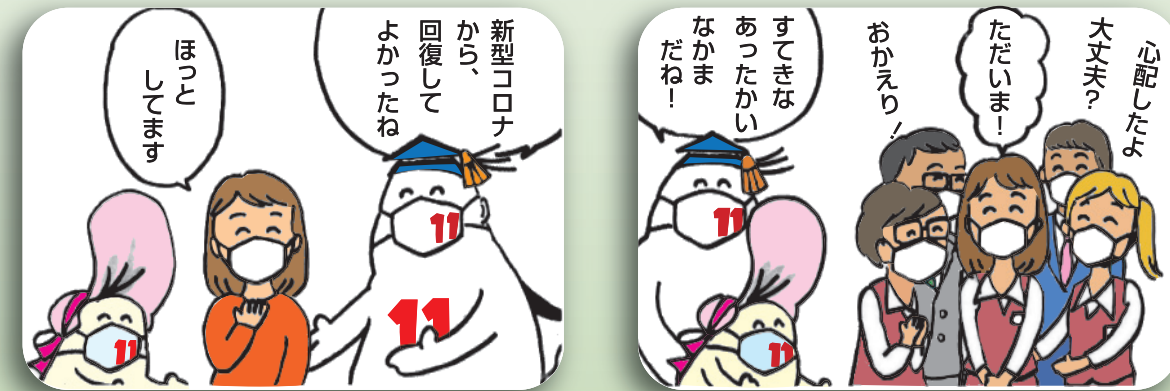
一人ひとりが、正しい情報を確認し、冷静に考え、行動することによって、みんなで「コロナ差別」をなくしましょう！
どんな時でも、どんな場合でも、差別は決して許してはなりません。



だれひとり取り残さない 人権のまちづくり

感染は、「悪」ではありません。どんなに予防していても、だれもが感染者、濃厚接触者になる可能性があります。決して、責められたり、不当な扱いを受けたりするべきではありません。

感染を広げないためにも、感染を隠さなくていい、安心して暮らせる地域であることがとても大切です。



おたがいに「だいじょうぶ？」「ありがとう」「たがいま」「おかえり」と声をかけあい、地域と家庭、職場（学校）がつながって、感染した人やその家族、関係者などを支えあうことが感染症に立ち向かう大きな力になります。

それは、私たちがめざしてきた、だれひとり取り残さない、「人権のまちづくり」です。

新型コロナウイルスと闘いながら、私たちの暮らしを支えてくれている人たちに感謝の気持ちを伝えることも大切です。

コロナ禍の「中」でも、「その後」でも、
お互いに支えあい、だれもが笑顔で暮らせるまち、
そんな「人権のまちづくり」を みんなでめざしましょう！



感染リスクと隣り合わせの中、医療、福祉、介護、保育、小売・販売、物流、通信、公共交通機関などで、たくさんの人たちが私たちの暮らしを支えています。